



▲参加者は早速、鎧かぶとの部品の確認をしました。

## 来年のイベントはマイ甲冑で参加 鎧かぶとづくり教室スタート

来年9月に開催する「戦国尼子フェスティバル」に向けた「鎧かぶと手づくり教室」が5月14日から始まりました。約7カ月かけて製作する鎧かぶとは、同イベントで実際に着用し武者行列などに参加することになっています。

教室には市内外の48人が参加。初回は紙製鎧かぶとの説明と、配布された部品の確認作業などがありました。今後は4つの教室に分かれ、講師からの月2回の指導と自宅作業で、本物そっくりの紙製鎧かぶとを完成させていきます。

伯太町から参加した田部裕さん（小学6年生）は「募集があったとき、社会の授業で戦国時代を習っていたので興味を持ちました。早く着用してみたいです」と話してくれました。

## 歴史学者小和田先生が ツアー客とともに月山を訪問

歴史研究の第一人者として知られる静岡大学名誉教授の小和田哲男先生が5月25日、ツアー客を連れて月山富田城跡を訪問しました。参加者は、同氏が講師を務める静岡新聞系列の文化講座受講生の皆さん。2泊3日の日程で山陰地方を訪れ、各地の城跡や史跡などを小和田先生の解説で巡る贅沢なツアーです。

2日目のハイライトである富田城跡では、尼子鉄砲隊が号砲でお出迎え。参加者は早速、整備された登山道で山頂に向かいました。2年ぶりに富田城跡を訪れた小和田先生は「城郭ファンとして現在進められている整備に感謝したい」と語りました。



まちの話題や出来事をご紹介します



## 幻想的なホタルの光

田植えが終わる6月初旬、市内各地ではホタルが飛び回る光景が見られました。また、吉田地区では6月10日にほたる祭りが開催されました。

今月の一枚



▼山中御殿では鉄砲隊が演武を披露。16人の参加者はサプライズに喜んでいました。中央が小和田教授。





▼地域ビジョンの実現に向けた方策を発表した赤屋交流センター。  
 ▲荒島交流センターは寸劇を交えて発表しました。



## 地域を元気に 企画をプレゼン

特色ある地域づくりを推進するため、交流センターから企画を募集し、実証事業を決定するがんばる地域おこし支援事業のプレゼンテーション大会が5月30日、安来中央交流センターで行われました。

「キッズもりあげ隊」をプレゼンした荒島交流センターは、子どもたちの活動を通して、地区の人が協力し合い、交流を深めることで、地域活動への興味を呼び起こし、地域が盛り上がりアピールしました。今回、支援事業に決定した荒島、赤屋の両交流センターは今年度中に企画の事業を行います。

## おいしい給食のことを知ってね

給食センターの調理を委託している東洋食品が6月6日、給食を配食する安来幼稚園で食の大切さを伝える授業を行いました。

授業を受けたのは年長ウメ組の27人。授業は“給食”をテーマにクイズ形式で行われ、「キャベツは何回洗うのでしょうか」「調理員さんはどんなときが一番うれしいのでしょうか」などが出題されました。子どもたちは手を挙げて元気よく答え、安全で安心に作られている給食について学んでいました。



▲給食で使う大きな道具を模擬体験しました。

## 中海・宍道湖護岸で一斉清掃

中海・宍道湖の豊かな自然を守り後世に伝えようと6月11日、みさき親水公園周辺で一斉清掃が行われました。この催しは平成17年11月に中海・宍道湖がラムサール条約湿地に登録されたことを契機に、毎年島根・鳥取両県の自治体で実施しています。

今年は安来で開始式が行われ、近藤市長や山陰両県知事など約300人が参加し、ゴミ袋を片手に汗を流しました。家族と参加した安東優さん（就将小5年）は、「石の隙間にゴミが多くあった。環境のことを考えてキレイにしたい」と話していました。



▶右から仙田さん、原さん、奈良井さん。

## 長年の相談業務に感謝状

長年、行政相談委員として活躍してきた3人に総務大臣から感謝状が贈呈されました。贈られたのは今年3月末まで委員として業務にあたっていた奈良井由夫さん（18年担当）、仙田芳弘さん（16年担当）、原敏男さん（14年担当）。

県内のリーダーとしても活躍した奈良井さんは「地域の皆さんとコミュニケーションをとりながら続けてきました。自身の勉強にもなり、私からも感謝したい」と感想を話しました。

行政相談委員は、行政サービスに関する苦情や問い合わせなどの相談を受け、解決のための助言などの仕事を無報酬で行っています。